

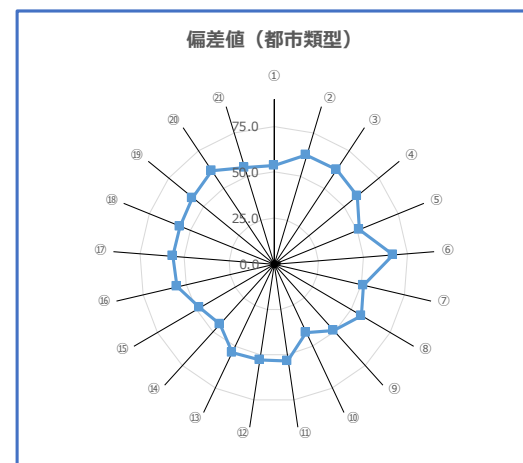
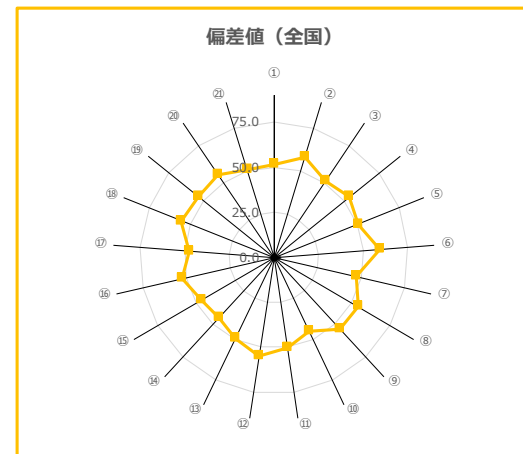
都市モニタリングシートの活用事例

5月末に開催された「Smart Wellness City 首長研究会(78都市)」において、参加自治体の健幸都市度の可視化として活用

都道府県	市町村	都市類型
新潟県	見附市	10万以下(市)

健幸都市度 (偏差値レーダーチャート)

項目	データ	偏差値(全国)	偏差値(都市類型)	データ収集元	備考
① 歩道整備率 [歩道設置率] [%]	51.0	51.3	53.7	都市モニタリングシート (指標312)	全国における偏差値
② 高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合 _公園から500m圏内の住宅の割合 [%]	68.2	58.4	61.9	都市モニタリングシート (指標316)	全国における偏差値
③ 公共交通機関地域の人口密度 駅およびバス停留所圏 (900m、300m) [人/ha]	16.9	51.0	62.2	都市モニタリングシート (指標292)	全国における偏差値
④ 日常生活サービスの徒歩圏充足率 _日常生活サービス徒歩圏 [%]	23.7	53.8	59.6	都市モニタリングシート (指標264)	全国における偏差値
⑤ 最寄り遊樂所までの平均距離 (m)	653.8	50.8	51.1	都市モニタリングシート (指標345)	全国における偏差値
⑥ 無料の公共交通路線の徒歩圏人口カバー率 駅またはバス停留所徒歩圏 (900m、300m) [%]	58.2	59.3	66.7	都市モニタリングシート (指標271)	全国における偏差値
⑦ 公共交通の機関分担率 (通勤通学) _通勤通学合計値 [%]	9.3	46.9	51.6	都市モニタリングシート (指標289)	全国における偏差値
⑧ 特定健診受診率 (%)	51.8	54.3	56.4	調査票	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑨ 特定保健指導実施率 (%)	44.5	54.3	49.4	調査票	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑩ 生活習慣の改善意欲 (%)	58.2	45.2	41.2	調査票	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑪ スポーツ実施率 (運動習慣) (%)	43.2	50.2	53.6	調査票	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑫ 市民一人当たりの自動車CO2排出量 (t-CO2/年)	1.0	54.8	52.8	都市モニタリングシート (指標369)	全国における偏差値
⑬ 要支援・要介護認定率 (%)	17.2	49.7	53.3	地域包括ケア「見える化システム」	・H28のデータを抽出 ・SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑭ 65歳以上の就労者数 (人)	2700.0	45.0	44.4	H27 国勢調査 (総務省)	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑮ 生活習慣病有病率 (%)	42.5	46.5	47.7	調査票	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
⑯ 一人あたり国保医療費 (円)	353501.0	52.7	55.4	H28 国民健康保険事業年報 (厚生労働省)	全国における偏差値
⑰ 一人あたり介護給付費 (円)	23102.5	47.7	56.3	地域包括ケア「見える化システム」	H28のデータを抽出
⑱ 平均寿命<男性> (年)	81.0	55.5	56.3	H27 市町村別生命表 (厚生労働省)	全国における偏差値
⑲ 平均寿命<女性> (年)	87.2	54.3	57.8	H27 市町村別生命表 (厚生労働省)	全国における偏差値
⑳ 自殺者数 (人)	3.0	55.1	61.4	H27 人口動態調査 (厚生労働省)	SWC首長研究会加入自治体内における偏差値
㉑ 財政力指数 (市町村財政)	0.5	50.7	54.7	都市モニタリングシート (指標343)	全国における偏差値

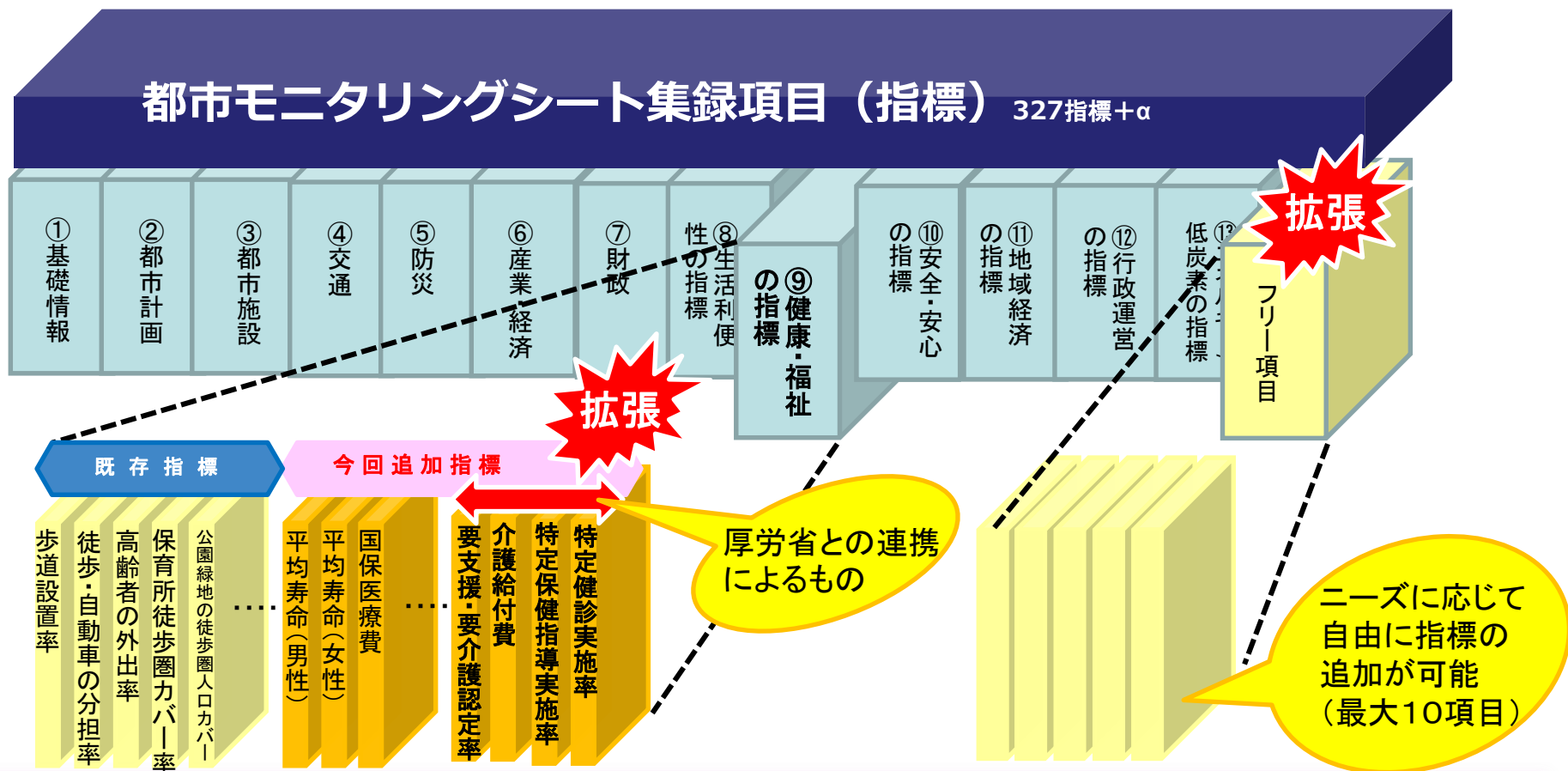


➤ 都市モニタリングシートをベースに、Smart Wellness City 首長研究会事務局が作成

都市モニタリングシートにある指標

分析ニーズに応じた厚労省との連携による健康・福祉の指標追加

実務のニーズに応じ、都市モニタリングシートの改良を行い活用の幅と柔軟性が向上



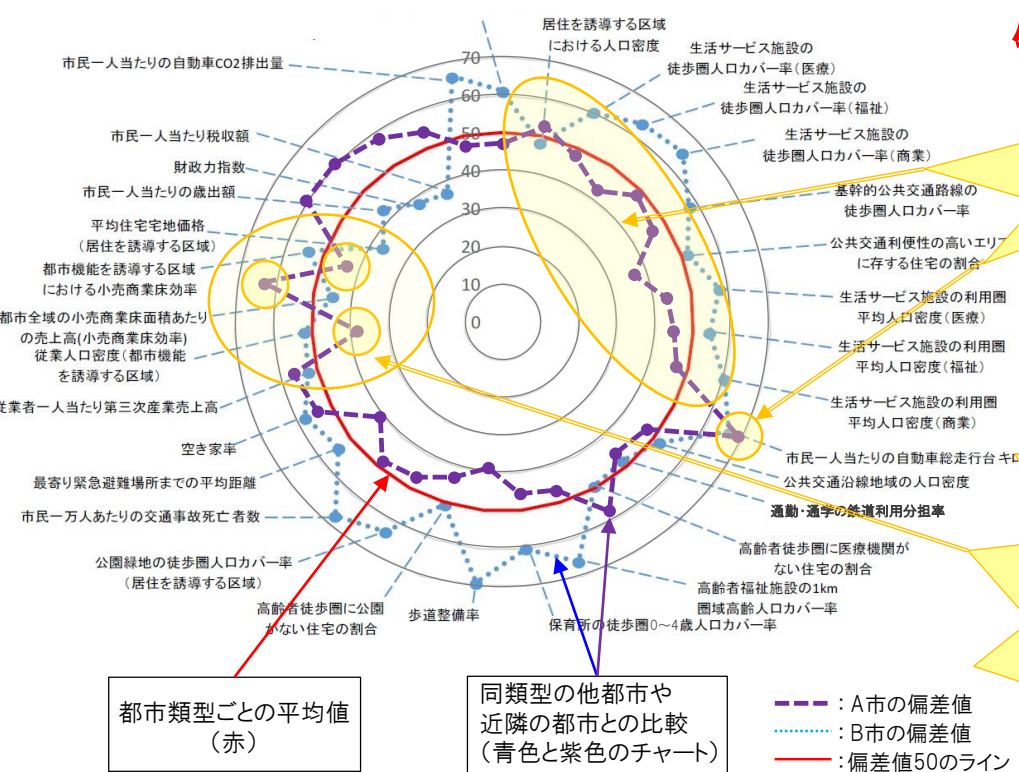
- ①健康・福祉指標の追加要望を受け、厚労省と連携し全国的に整備が可能な項目の集録追加を実施し、指標数の拡大により、さらに詳細な分析が可能
- ②手持ちのデータを任意に加え、オリジナルのレーダーチャート作成が可能

各都市の強み・弱みの見える化(都市モニタリングシートの作成・公表)

- ▶ 各自治体においてコンパクト・プラス・ネットワーク等まちづくりを推進するためには、まずは自らの都市を知ることが前提。
- ▶ 各都市で自らの「強み」「弱み」が分かれば、例えば、市町村における施策の重点分野の内部調整の際や地域住民等に対するその妥当性の説明の際などにおいて、一目でわかる根拠の提示や、さらに詳細な分析のきっかけとすることができるようになる。
- ▶ しかし、これまでも人口、面積、財政、産業等の個別分野でのデータ比較はよく行うものの、都市の全体的な姿を表す全国的なデータまでではなく、自らの都市の特徴(強み・弱み)を定量的に俯瞰することは簡単ではない。

同類型都市の平均や他都市と、自都市とを、複数の指標項目で俯瞰的に比較することが簡易にできるツールを提供
 ワンタッチでレーダーチャートを自動作成するツールを装備 ・市町村の都市計画担当者等による簡易な操作で都市の強み・弱み等を可視化 (平成30年7月に作成・公表)

＜レーダーチャート自動作成ツールによる同類型のA市及びB市の比較イメージ＞



気づき!
 A市は生活サービス施設等の徒歩圏人口カバー率が低く、自動車走行台キロが高い数値となっている。

気づき!
 A市は、都市全域の売上高は高いが、都市機能誘導区域の小売商業床効率、従業員人口密度は低い。

分散型の都市構造であり、自動車交通への依存度が高いことが推察される。

商業、サービス業は、郊外では活発だが中心部では活発でないと推察される。

施策の検討やスムーズな合意形成に寄与

- ・施策、事業の重点実施等の方向性を検討する材料の一つとして活用。
- ・住民等への説明の際に一目でわかる根拠資料として活用。